

2004年度実践団体の近況報告（国立病院機構害災害医療センター 臨床研究部）
【2005年度の防災教育への取り組み内容】
<p>◆プランタイトル 中学生に対する医療面からみた災害医療教育体制の確立と災害医療教科書の作成</p>
<p>◆プランの概略 中学生も災害にあったときの医療・医学・看護面からの重要性を理解してもらい、お互いに協力できる一歩となるための教材作り・意見交換を行うことを目的とした活動である。 内容としては、1)教科書の原案作成：現在の予定は、大きく3部からなる予定で、 ① 災害時の際に必要な医療面からの知識・技術に関するやや各論的な内容、 ② 災害で医療が準備される必要があることを実際の災害・小説等を題材にした内容、 ③ 災害の際の医療を幅広く知ってもらうための災害医療の特徴の総論的な内容、 2)中学生を含む一般の方々用の災害医療の簡便辞典の作成(既に作成済み) を準備しつつある。また、機会がえられれば、中学生へのアンケート・講義／討論会も行いたいと考えている。</p>
<p>◆プランの対象と参加人数 現時点で詳細は不明であるが、教材の作成予定は、数百部。</p>
<p>【取り組みの特徴・ポイント】 平成 16 年の昨年度は、高校生用にテキストブックの原案を作成したが、今年度は中学生への取り組みとしたことの説明をする。 災害医療への私たちの取り組みは、時間的にも、空間的にも、関わる人々に関しても広く・長くとらえることとしている。 災害医療というと、どうしても災害時に悲惨な急性の状態での活動がマスコミでも大々的に取り上げられ、強い印象を残すが、実際は、中・長期的な医療、更に予防的な面からも考える必要があるし、またいろいろな(全ての)人の協力で始めて成り立つ。</p>
<p>【昨年度との相違点（特に新たに改善した点、工夫した点等）】 従来の現代災害医療はわかり簡便辞典：用語集と用語説明の改訂版を作成した。項目を増やし、若干判りやすくした。その他は、上記に記載した通り。</p>